

【アドバイザーパートナー企業一覧】(24社 / 2025年2月時点)



あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 | 株式会社あおぞら銀行 | アビームコンサルティング株式会社
 兼松エレクトロニクス株式会社 | キヤノン株式会社 | 京セラ株式会社 | 株式会社コトラ | 住友林業株式会社
 株式会社セブン&アイ・ホールディングス | 第一生命保険株式会社 | デロイト トーマツ グループ
 東海旅客鉄道株式会社 | 東京海上日動火災保険株式会社 | 東京ガス株式会社 | 日本通運株式会社 | 株式会社フジタ
 富士通株式会社 | 富士フイルムビジネスソリューション株式会社 | 丸紅株式会社 | 株式会社みずほフィナンシャルグループ
 三井住友信託銀行株式会社 | 三菱UFJ信託銀行株式会社 | 株式会社明治 ほか

【スタンダード企業一覧】(11社 / 2025年2月時点)



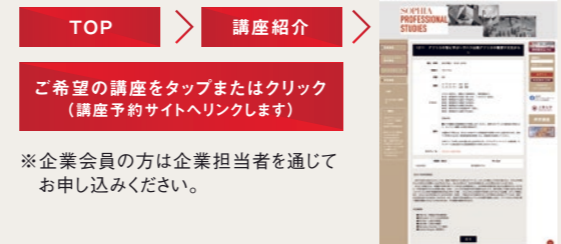
エーオンジャパン株式会社 | 株式会社オンワードホールディングス | コクヨ株式会社
 SOMPOホールディングス株式会社 | 日本ケロッグ合同会社 | 日本航空株式会社 | 株式会社ニュー・オタニ
 ハウス食品グループ本社株式会社 | 株式会社三井住友銀行 ほか

プロフェッショナル・スタディーズWebサイトも併せてご利用ください。

プロフェッショナル・スタディーズ Webサイト
<https://www.sophia-professionalstudies.jp>



講座はWebサイトからお申し込みいただけます。



※企業会員の方は企業担当者を通じてお申し込みください。



問い合わせ先
 プロフェッショナル・スタディーズ事務局
 TEL: 03-3238-3552
 E-MAIL: 企業会員の方 prostudies-co@sophia.ac.jp
 個人会員の方 web_kookai-co@sophia.ac.jp

※ 講座内容や担当講師、開講時間等は変更の可能性があります。

2025年2月発行

上智大学
 社会人プログラム
 2025



SOPHIA PROFESSIONAL STUDIES



Sophia — Bringing the World Together

教養を実践智へ ～着想、構想、実装へのアプローチ～

多様な議論の場に集い、
変革の時代に備えるべき、
マルチステージをデザインする“智力”を探究する

ビジネスの第一線を預かる人達の学びには、多様な目的、さまざまな形態、そして大なる自由度があるべきと考えます。例えば、日々の仕事の質を向上させるために、その専門性を高め、またスキルを磨くことも重要な学びでしょう。一方で、社会で提供されるべき学びの機会には、まだ本質的な何か欠けている気がします。それは、智力としての基盤を強固にし、人間の軸を太くするための学びの場ではないでしょうか。そしてその学びの場は、一人ひとりの個性を育み、その創造性から実践智が生み出されるというプロセスを実感する機会であるべきと考えます。

そのような想いから、上智大学では、ビジネスパーソンに学びの新たな視点を提供したいと考えに至りました。それは、

1. 個性を磨き、
2. 人間の軸としての智の基盤を強固にし、
3. 着想、構想、実装という、三つの創造的発想の源泉となり、
4. 実践的機会において創造的役割を果たす

ための智力の獲得を目指す学びの場です。これは、「教養の深化と広角化から成し得る、創造的な実践智の獲得プロセス」を経験することとも言換えられます。蓄積する知識ではなく、発揮する智慧を創出する源泉として「個性としての教養」を獲得し、実践智を生み出すプロセスを学ぶ場は、ビジネスの第一線におられる方々には刺激と興奮の連続となることも期待されます。そのためには、日頃探究する機会の少ない題材・テーマを用いて、多様なバックグラウンドを持つ仲間と議論を交わす、まさに異質に触れながら異質と議論を交わす、そのような場の提供が求められるのだと思います。このような鍛錬により、自分自身の中で予期せぬ智の反応が起こり、新たな着想に至り、先を展望した構想を打ち立て、多角的な視点から社会に有意な実装フェーズへ昇華させていく、すなわち実践智の形成プロセスを経験することが期待されるのではないのでしょうか。独創的な実践智は、スキルの組み合わせでは創出できないものであり、自分自身という人間の軸を太く、そして個性を磨き上げることが肝要と考えます。

上智大学プロフェッショナル・スタディーズでは、多くのアドバイザーパートナー企業のご賛同を得て、扱われる題材・テーマ、教授方法など、この講座の有り様を産学連携のもとで議論しながら運営しています。社会に新たな学びの場を創出するという私たちの挑戦でもあります。ぜひご期待の上、ご参加をお待ちしています。

日本社会が持つ課題とグローバル社会の変革

グローバル市民・人材像の変化
グローバル×高度情報化社会の到来
個人・組織が学び続ける時代

価値・倫理が変わる時代
信念、理念が問われる時代

国際通用性

変革の時代に
社会が備えるべき“智”を再考

創造性

国際通用性を持つ教養

人間性の陶冶
多様性社会の真の理解
グローバル社会を俯瞰する視野
グローバル・ローカルの双方向視点
歴史と宗教が示唆する世界理解
国際的視点から見た日本の理解と発信
交渉力
など

創造性を発揮する教養

信念、理念、倫理の創出
価値の創造
イノベーションへの着想
課題へのアプローチ法の導出
構想とデザイン
社会展望力
論理的思考、批判的思考
など

OUTLINE

上智大学プロフェッショナル・スタディーズとは

「上智大学プロフェッショナル・スタディーズ」は、実業界と本学が一体となって産学協働の学びの場を創成する新たな試みです。プログラムは、国際通用性と創造性を高める「教養講座」、交渉学、国際会計など、専門性を磨く「スペシャリスト養成講座」、各分野の専門家や著名人により社会展望力を醸成する「スペシャルトーク」という3本の軸で展開します。本学の教員、名誉教授を中心に各講座のコーディネーションを行い、学内外からの講師陣を配置。ビジネススキルの向上とは一線を画し、また単なる学術的な講義の提供でもない、新たな学びの場として、新しい社会、ビジネスの創造に向けた革新的な着想を引き出す工夫を加えた講座を展開します。



教養講座

1講座全6回 | 各回90分

上智大学ならではの社会の切り取り方で、多様性のある国際社会において信頼を獲得し、同時にイノベーションへの着想や新しい価値の創造を導く6種の講座群を配置。

講座群

- ▶ 人間の本质と倫理、哲学
- ▶ 歴史、宗教に学ぶ世界の俯瞰
- ▶ グローバルな視野とローカルの視点
- ▶ 良質な社会に向けた責任とアクション
- ▶ 科学から読み解く社会像
- ▶ 交渉のための論理と批判



スペシャリスト養成講座

1講座全8回 | 各回90分

国際性、社会貢献、コミュニケーション力といった上智大学の強みを反映させ、現代社会の課題に対して、一定の水準に到達できる専門性の高い講座を配置。

教養講座、スペシャリスト養成講座は、春学期・秋学期に分け、平日18:30～20:00、土曜日の日中に開講します。
※一部講座は、これらの時間区分によらず開講する場合があります。詳細はWebサイトにてご確認ください。



スペシャルトーク

年間6回開催予定
1講座1回 | 各回90分

開催内容はWebサイトにて随時公表
混迷を続ける社会のグローバル化に焦点を当て、グローバル経済の動向、国際関係の行方、グローバルリスクなどの喫緊の課題を取り上げ、各分野の専門家や著名人を招き紐解きます。

【2023年度実績】

- 第1回「京セラでのこれからのリーダー像」
京セラ株式会社 社長 谷本 秀夫
- 第2回「ドイツ人から見た日本経済の歩みと現状」
ドイツ日本研究所 所長 フランツ・ヴァルデンベルガー
- 第3回「Luxury Market Overview」
LVMH Japan 社長 ノルベール・ルレ
- 第4回「現代アートで世界がわかる」
森美術館館長 片岡 真実
- 第5回「ビジネスと人権」
HRWジャパン代表 土井 香苗
- 第6回「量子コンピューティングのビジネス応用」
慶應義塾 塾長 伊藤 公平

【2024年度実績】

- 第1回「社会がより良くなるお金の流し方」
READYFOR株式会社代表取締役CEO 米良 はるか
 - 第2回「世界最高の話し方」
コミュニケーション戦略研究家 / エグゼクティブ・スピーチコーチ / 株式会社クロコム代表取締役社長 岡本 純子
 - 第3回「池坊華道は何故千年以上続いてきたか、その背景と精神性について」
華道家元池坊専修 株式会社日本華道社代表取締役 池坊 雅史
 - 第4回「私がソニー創業者、盛田昭夫さんから学んだこと」
ソニー株式会社元社長、長野県立大学元理事長 安藤 国威
 - 第5回「戦争の中の言葉への旅」
日本文学研究者 / 早稲田大学特命教授 / 早稲田大学国際文学館 / (村上春樹ライブラリー) 顧問 / 2025年日本国際博覧会協合理事 / 東京大学名誉教授 ロバート キャンベル
 - 第6回「トランプと暗号資産」
マネックスグループ株式会社代表執行役会長
兼コインチェックグループ・エグゼクティブチーフマン 松本 大
- スピンオフ企画「ジャズ型組織は、なぜ強いのか
元リクルート社員、現NY在住ジャズ作曲家が見た
個性的で変化に負けない組織を作る方法」
NY在住ジャズ作曲家・ピアニスト・プロデューサー
元リクルート「じゃらん」編集デスク 宮崎 みぎわ

会員区分について

上智大学プロフェッショナル・スタディーズは、実業界と本学が一体となって産学協働で学びの場を創生する、従来とは全く異なるかたちの産学連携プロジェクトです。会員区分はアドバイザーパートナー企業会員とスタンダード企業会員の2種があり、会員区分により特典(受講枠など)が異なります。また、企業会員のみならず、各講座ごとに受講料をお支払いいただくことで、個人の方のご受講も可能です(個人会員)。

アドバイザーパートナー

企業にアドバイザーパートナーとして、ご参画をいただいております。アドバイザーパートナー企業の皆様には連絡協議会への参加を通じ、講座への企業側からのニーズやビジネスの最前線で求められる国際通用性などについてご意見を頂くなど、本プログラムの構築にご協力をいただいております。 ※企業一覧はうら表紙

■ 参画・受講会員区分

- ①アドバイザーパートナー企業会員
- ②スタンダード企業会員
※アドバイザーパートナー・スタンダード企業会員特典については、プロフェッショナル・スタディーズ事務局までお問合せください。
- ③個人会員

■ 参画・受講申込方法

- ①アドバイザーパートナー企業会員
- ②スタンダード企業会員
として参画を希望される場合
→プロフェッショナル・スタディーズ事務局
TEL:03-3238-3552
E-MAIL: prostudies-co@sophia.ac.jp
までご連絡ください。
- ③個人会員として受講を希望される場合
→プロフェッショナル・スタディーズのWeb
サイトより申込を受け付けます。申込方法や
開講スケジュール、受講料等、詳細はWeb
サイトにてご確認ください。

■ 参画・受講料

- ①アドバイザーパートナー企業会員
Sプラン会員:700万円 / 2年(税込)
38名枠 / 年
Aプラン会員:500万円 / 2年(税込)
26名枠 / 年
- ②スタンダード企業会員
メンバーシップ料:180万円 / 2年(税込)
8名枠 / 年
- ③個人会員
・教養講座 1講座:10万円(税込)
・スペシャリスト養成講座 1講座:15万円(税込)

アドバイザーボードメンバー紹介

プロフェッショナル・スタディーズでは、アドバイザーボードを設置し、以下5名のメンバーに本プログラムの構築・運営に参画いただき、本学と産業界との連携にもご尽力いただいております。

上智大学特任教授

野村アセットマネジメント株式会社 取締役会議長
カリフォルニア大学バークレー校ハースビジネススクール 理事
議長 山本 誠一郎

1985年慶應義塾大学経済学部卒業後、安田信託銀行(現みずほ信託銀行)に入社。1999年に米サンフォード・C・バーンスタイン社に入社。2012年から2019年までアライアンス・バーンスタイン社日本法人の代表取締役社長、会長、本社パートナーを歴任。2019年にY-Labsを創業、次世代支援活動に従事。2021年より野村アセットマネジメント社取締役会議長に就任。カリフォルニア大学バークレー校経営大学院卒(MBA)。

前ノバルティスファーマ株式会社 取締役会長
鳥居 正男

1975年上智大学国際部経営学修士課程修了。1992年ハーバードビジネススクールAMP修了。1971年日本ロシュ入社。1983年から1987年までアメリカとスイスのホフマン・ラ・ロシュ社に就任。1993年 ローヌ・プーランローラー株式会社代表取締役社長。1995年 シェリング・プラウ株式会社代表取締役社長。2011年ベーリンガー・インゲルハイムジャパン株式会社代表取締役社長、2011年エスエス製薬株式会社代表取締役社長兼務。2016年ノバルティスホールディングジャパン株式会社代表取締役社長。2020年よりノバルティスファーマ株式会社取締役会長。2021年8月退任。上智大学ソフィア会会長、上智大学評議員。

上智大学特任教授

Startup Genome Japan株式会社 代表取締役社長
西口 尚宏
上智大学経済学部卒。ノースウエスタン大学ケロッグ経営大学院卒(MBA)。世界銀行グループワシントンDC本部などで計8年米国勤務。外資系コンサル会社パートナー、産業革新機構執行役員等を経て現職。イノベーション・マネジメントでスウェーデン国立研究所(RISE)認定のプロフェッショナル資格を持つ唯一の日本人、内閣府ムーンショットアンバサダーなど政府委員会委員を歴任する等、産官学にまたがる幅広いグローバルネットワークを有する。上智大学ソフィア会副会長、経済同友会会員。

上智大学特任教授

一般社団法人アジア・ソサエティ・ジャパン 事務局長
日高 佐和子
2018年9月に新たに設立されたアジア・ソサエティ・ジャパンの初代事務局長に就任。外資系金融機関で25年以上にわたりスタートアップ、マーケティング、コーポレートサービス部門をリードしてきた経験を持ち、組織の成長のために強固な業務基盤を構築した経験を持つ。金融業界以外にもアート業界への関心からニューヨークの美術館にも勤務した経験を持つ。

上智大学特任教授

増山&Company合同会社 代表社員社長
立命館大学大学院経営管理研究科客員教授
増山 美佳

日本銀行に勤務後、Cap Gemini Sogeti本社(在仏)にてInternational Marketing Director就任。帰国後、市場参入戦略、M&A及び組織・業務改革等コンサルティングに従事。エゴンゼンダー株式会社パートナーを経て、新会社設立。サントリー食品インターナショナル株式会社社外取締役(監査等委員)、ココロ株式会社社外取締役、鴻池運輸株式会社社外取締役、メットライフ生命株式会社社外取締役ウシオ電機株式会社社外取締役を歴任。経営陣の後継者選抜と育成(サクセッション・プランニング)、人財・組織開発(多様性DE&Iの導入等)、エグゼクティブ・コーチング、ガバナンス(取締役会の有効性評価、人事報酬委員会準備支援・運営)を専門分野とする。上智大学法学部国際関係法学科卒。INSEAD MBA。経済同友会会員。

2025年度 講座紹介

教養講座32講座、スペシャリスト養成講座10講座、合計42講座を開講予定

教養講座

人間の本质と倫理、哲学

講義1112 SDGsを哲学する

—平和・平等・正義・幸福・公共・ケアを考える—

日本政府の「第6期科学技術・イノベーション基本計画」では、哲学などの人文学の知見を基盤として、「直面する脅威に対し、持続可能性と強靭性を備え、国民の安全と安心を確保するとともに、一人ひとりが多様な幸せ(well-being)を実現できる社会」をめざす、とされています。個人も企業も、対症的なリスクヘッジにとどまらず、より人間的な目的を実現することが必要とされています。各企業も取り組むを求められているSDGsですが、その核心となるのは「平和、平等、正義、幸福、ケア」などの人間的な理念です。本講義ではそれらの理念がもっている哲学的な内容と意義を、資料やテキストを使ってともに考えます。

開講のねらい

SDGsに謳われている「平和、平等、正義、幸福、ケア」などは、たんなるスローガンではなく、それぞれが哲学的な意味もっています。本講義では、いくつかの哲学のテキストからその内容について考えます。

担当コーディネーター

名誉教授

大橋 容一郎

講義1113 哲学の古典と対話で考える人間と世界

—深く豊かな思考のために—

哲学は古くからある学問分野ですが、大学の研究室や教室に閉じ込めておくのはおかしなことです。というのも、哲学とはもともと学問分野ではなく、「知を愛し求めること=philosophia」であり、人間と人間を取り巻く世界に知的な好奇心を持つ人なら、誰でも取り組むことのできる知的活動だからです。18世紀の大哲学者イマヌエル・カントが「世界概念」の哲学を「学校概念」の哲学から区別し、前者が本来の哲学だと論じたことが、それをよく表しています。哲学的思考の対象となる問いは、私たちの生活・人生=lifeのそこかしこに潜んでいます。そうした問いをめぐって、古今の哲学者の著作を読み、他の参加者と対話しながら、共に考えてみませんか。それは楽しいだけでなく、生きる中で出会う様々な問題を考えるのに役立つ、深く豊かな思考を育むことにもなります。今期の問いは「善悪」です。アリストテレス、カント、J.S. ミルなどの著作の一節を読み、参加者同士で対話をしながら、考えます。

開講のねらい

哲学的な問いを自分で考え、古今の哲学者を含む他の人々と対話しながら考えることによって、職業生活、社会生活、家庭生活に役立つ自律的思考、共同的思考、批判的思考、創造的思考を養う。

担当コーディネーター

文学部 哲学科 教授

寺田 俊郎

講義1211 人・自然・社会の持続可能性とライフスタイルの転換

上智大学には、全学共通の卒業要件としての選択必修科目群の中に「かかわりの存在」としての人間理解を学ぶ科目があります。「かかわりの存在」としての人間理解とは、人間存在を「自己」、「他者」、「自然」、「超越」という4つの関係性に貫かれた存在と捉え、これらの調和を求める人間観です。このような考え方を、理念的に頭で理解することはできません。しかし、衣食住をはじめとする家庭での基本的な生活から、仕事や学び、人々とのコミュニケーションなど、さまざまなかかわりの諸次元で調和のとれた健やかな関係性を築くのは簡単なことではないと思います。本講義では、このような人間学的な考え方を参照しつつ、現実の社会的次元で、新しい価値、新しい発想によって、持続可能で豊かな居場所づくりに取り組んでおられる方々の実践事例に学びます。これらを通して、私たち自身が、人間として生きる意味、学ぶことや働くことの意味や価値、自分自身の持続可能性やレジリエンスを一緒に考え、ささやかなライフスタイルの転換のきっかけになることを願っています。また、講座では、ライフスタイルの転換を促す、簡単な行動転換メソッドもお伝えします。

開講のねらい

「かかわりの存在」としての人間観を参考にしつつ、新しい発想で地域循環共生圏(ローカルSDGs・ローカルベンチャー)やインクルーシブな地域づくりに取り組む方々に学びます。そこから改めて、生きること、学ぶこと、働くことを考える機会になることを願っています。

担当コーディネーター

基盤教育センター 教授

吉川 まみ

人間の本质と倫理、哲学

講義1212 身体の叡智に学ぶ—ソマトニックワークが変える世界—

身体をテーマ化することの現代的意義について、現代社会論の文脈で議論することから本講座はスタートします。現代社会やマスメディアを席巻する身体をめぐる様々な社会現象がどのような問題性を孕み、その結果どのような身体観を人々にもたらすのかを探ることでその特性を捉えます。社会的に築かれた現代的身体観こそが、その延長としての世界構築の枠組となり、それが科学技術優先主義や経済合理性によって牽引されて今日に至るのです。この文明化の過程では機械的合理性がもてはやされ、一方でないがしろにされてきたのは「身体知」「身体性」や「内なる身体(ソーマ)」への配慮です。多様な職業的背景をもった講師陣は、それぞれ固有の身体性やソマトニックなワークを実践しています。参加者全員が体験する参加型の講座を通して、身体知の存在を肌で感じ、理解し、その感覚経験がより良い世界の構築にどのように活かせるのかを学ぶことになります。混迷する時代であることが、かえって本講座の存在意義となるのです。

開講のねらい

混迷するいま、人は何を根拠に生(いのち)を再考し、新たな秩序や社会構築の方向性を見出すのでしょうか。その基礎に「身体」を置いてみるのが本講座の特徴です。特に内なる「身体の自然」、一人称の気づきから出発する思考法を提案します。

担当コーディネーター

名誉教授

鈴木 守

講義1213 仕事に生かす哲学的対話

—深く豊かな思考のために—

哲学は古くからある学問分野ですが、大学の研究室や教室に閉じ込めておくのはおかしなことです。というのも、哲学とはもともと学問分野ではなく、「知を愛し求めること=philosophia」であり、人間と人間を取り巻く世界に知的な好奇心を持つ人なら、誰でも取り組むことのできる知的活動だからです。18世紀の大哲学者イマヌエル・カントが「世界概念の哲学」を「学校概念の哲学」から区別し、前者が本来の哲学だと論じたことが、それをよく表しています。哲学的思考の対象となる問いは、私たちの生(生活・人生)のそこかしこに潜んでいます。もちろん、私たちの仕事の場にも。そうした問いを拾い上げ、対話を通して一緒に考えてみませんか。それは楽しいだけでなく、仕事の場に出会う様々な問題を解決するのに役立つ、深く豊かな思考を育むことにもなります。対話の後で、考え続けるヒントを過去の哲学者の言葉の中から紹介します。

開講のねらい

哲学的な問いを自分で考え、他の人々と対話しながら考えることによって、職業生活や社会生活に役立つ自律的思考、共同的思考、批判的思考、創造的思考の技法を養う。

担当コーディネーター

文学部 哲学科 教授

寺田 俊郎

歴史、宗教に学ぶ世界の俯瞰

講義1121 日本文化と武士道

国際的なスポーツ大会において「侍ジャパン」「侍ブルー」など、ことさらに武士が持ち出されるのはなぜでしょうか？ また、武士道精神とか武士の情けなどと、武士という言葉がわれわれの日常生活で使われることもまた少なくありません。この講座では、古典的な文献の読解を通して、武士道の歴史やその思想基盤を明らかにしながら、日本文化との関わりに光を当ててゆきたいと思います。

開講のねらい

日本文化の基盤に武士の存在があることを、文献資料を通じて新たな視点から読み解いてゆきます。

担当コーディネーター

文学部 国文学科 教授

長尾 直茂

講義1222 グローバル組織が直面する文化摩擦とその克服

～ローマ・カトリック教会の試行錯誤に学ぶ～

ローマ・カトリック教会は世界的に一つのまとまった組織で、信徒数は12億人を越えており、世界最大の宗教教派です。その2000年の歴史のなかで、かずかずの政治や文化の挑戦を受け、本質を見失わずに、失敗と成功を繰り返しながら、世界のすみずみに浸透してきました。その基本は相手の文化を学び、適応することでした。第一日目は、その間の歴史を垣間見ること、企業や組織がグローバルでありつづけるために参考になることと思います。二日目では、今日の三つの分野での具体的活動を紹介したいと思います。今日もさまざまな視点と実践を通して、世界の平和と人類の発展という共通目標に寄与しようと努力しています。それらの実践に共通していることは、カトリック教会が独立して働くのではなく、他の宗教、一般の活動団体と密接に協力していることです。この姿勢も今日、より効果的な活動を行ううえで、とくに求められていることであろうと思います。

開講のねらい

個人的生活において、また組織において、ともに生きるために具体的にどのような配慮が必要か、歴史を見ながら考えます。また現代の問題にも目をそらすことなく、自分にできることを考える機会としたいと思います。

担当コーディネーター

名誉教授

山岡 三治

教養講座

歴史、
宗教に学ぶ
世界の俯瞰

グローバルな
視野と
ローカルの視点

講義1223 アジア・太平洋戦争(1941-45年)をふりかえる

東南アジアの大部分の地域は、1941年から45年のアジア・太平洋戦争期に日本軍の占領下におかれました。戦争終結から80年が経ち、日本と東南アジア諸国はアジアの隣人として、とくに経済面での相互依存、交流を深めています。日本で暮らす東南アジア出身の人たちも増えてきました。これからの日本と東南アジアの関係を展望する上で、いま一度、歴史をさかのぼり、1941年から45年の戦争がどのようなものであったかをふりかえります。この講座では、まず、アジア・太平洋戦争の全体像を検討し、つづいて各国、地域における占領、戦争に焦点をあてて講義します。さらに戦後の日本との関係についても考えていきます。

開講のねらい

アジア・太平洋戦争を東南アジアの地域ごとに検討し、各地域で戦争がどのように教えられ、理解され、記憶されているかを学びます。

講義1131 イスラム諸国の宗教と政治—建国のリーダーの理念と現実

イスラム(教)は個人の生活や社会生活だけでなく、政治にも関わることから、イスラム諸国における「宗教と政治の関係」は近代的な、いわゆる政教分離主義が支配的な今日にあって、しばしば地域的、国際的に難しい問題を生じさせています。しかし、イスラム諸国といっても、「宗教と政治の関係」は国によって異なり多様です。それは、建国のリーダーがいかなる「宗教と政治の関係」を構想したか、に大きく影響を受けているからです。本講座では、今日の国の基礎を築いた建国のリーダーたちの構想に着目し、その後の変化の実態を検討することによって、イスラム諸国における「宗教と政治の関係」の多様性を明らかにするとともに、それが投げかける今日的な課題(地域内の宗教的共存問題や移民、出稼ぎなどの問題を含めて)を検討することを目的とします。対象とする国とリーダーは、トルコとケマル・アタテュルク、チュニジアとブルギバ、エジプトとナセル、インドネシアとスカルノ、イランとホメイニ、サウディアラビアとアブドゥルアジズです。なお事前課題資料と課題が毎回、提示されます。

開講のねらい

本講座では、イスラム問題を「宗教と政治」の関係から検討することにより、近代社会の特徴といわれる「政教分離」の理念がイスラム諸国で多様な形で受容されている実態とその意味を考えることを目的とします。

講義1132 講義1233 グローバルリスクと戦略的コミュニケーション

グローバル化の進展は企業に様々な機会とリスクをもたらし、新たな戦略的コミュニケーションのニーズを生み出しています。政治や経済領域における国際摩擦や世界情勢の多極化、価値観の多様化がもたらす多種多様なリスクを戦略的なコミュニケーションによって早期に察知・分析し対応することは、国際社会で信頼される組織としての地位を確立し維持する上でも不可欠です。適切なタイミングや内容で行われるコミュニケーションは組織を、時には人命や社会を救うことにも繋がります。他方、その失敗は大きな損失をもたらしかねません。国際的なルール変更といったリスクについても、オピニオンリーダーや社会とのコミュニケーションが重視されています。本講座では、欧米を中心に発展したリスクや危機・クライシスに対応する戦略的コミュニケーションの理論や歴史に基づき、過去や現在の事例について議論をすることで、グローバルリスクへの向き合い方について考えます。

開講のねらい

世界情勢の多極化や競争の激化、価値観の多様化がもたらす様々なグローバルリスクに対応する上で、政府や企業に求められる戦略的なコミュニケーションとは何でしょうか。歴史や理論、事例を通して考察します。

担当コーディネーター

名誉教授

寺田 勇文

担当コーディネーター

名誉教授

私市 正年

担当コーディネーター

文学部 新聞学科 准教授

国枝 智樹

グローバルな

視野と

ローカルの視点

講義1133 International Liberal Arts:

Great Contemporary Thinkers and Our Daily Life

This course will explore the ideas of six contemporary thinkers who have greatly impacted the way we think in the 21st century. These include Jared Diamond, Yuval Harari, Michael Sandel, David Attenborough, Yanis Varoufakis, and Fei-Fei Li. Their books received numerous awards, have been translated into many languages, and topped the best-seller lists in major newspapers and journals. Their thoughts range from human evolution, philosophy, art, the environment, economics, and our relationship with AI. The purpose of this course is to make the complex and intriguing ideas of these thinkers alive and accessible to us. In class, lectures and discussion will be primarily in English with some references and explanation in Japanese when necessary. We will generate lively discussion as to how these ideas are relevant to our daily life as working and private individuals seeking meaning in the 21st century. Exposure to these great works will impact the way we see the world and enrich our conversations with people around the world.

開講のねらい

This course aims to approach and understand great contemporary ideas in a language that is relevant and close to our daily life. We will emphasis sharing and discussion in English to bring out new possibilities in our communication skills about things that are interesting and meaningful to our life and work. We will explore the language of liberal arts to gain a better understanding of ourselves and our world.

講義1234 変わる世界秩序と安全保障

—今日の情勢を共に考える—

「無秩序とは、我々の好まない秩序のことである」とは、ある先人の言葉です。これは、人や国が自己の利益に叶うものだけを秩序として認め、ほかの秩序は無秩序として一掃しがちなことを指摘したものです。こうした秩序の主観性や相対性を念頭に、本講座では、国際政治の視点から、安全保障に関する諸問題を扱います。国際安全保障、すなわち戦争と平和の問題は、武力・暴力の問題である以上に、好ましいとされる秩序をめぐる闘争なのです。本講座では、冷戦後から今日までの現代において、世界秩序のあり方が問われた国際安全保障上の象徴的な出来事・現象を扱います。テロとの闘い、北大西洋条約機構(NATO)や欧州連合(EU)の東方拡大、軍縮・軍備管理問題などに加え、一見関係のなさそうな歴史認識問題やヨーロッパの移民問題もこの範疇の出来事・現象に入ります。本講座では、必要に応じて過去—特に冷戦期—を振り返りつつ、今日の国際情勢の理解と考察へ繋げていきます。なお、講義内のディスカッションでは受講生の積極的な発言に期待します。

開講のねらい

いま我々は、世界秩序が変わる「時代の転換期」にいます。秩序変革の裏には分断があります。安全保障問題をめぐる国際社会の分断を理解し、より良き次世代構築へ繋げる。そうした狙いで国際情勢を共に考えます。

講義1235 Understanding the World in the Language of International Liberal Arts

The language of international liberal arts (国際教養の言葉) is not confined to the narrow meaning of languages, such as Japanese, English, or French. It is a language that fosters understanding and communication among humanity. It speaks in many voices and enables people in different fields and cultures to find a common language for discussion and understanding. It is complex but not exclusive, and it aims at connecting our minds across borders and nationalities to build something larger and more meaningful than what a single specialized language can accomplish.

In this course, we will examine essays, visual culture (art and film), literature, music to see how the language of liberal arts allows us to communicate with each other across borders, cultures, time, and specializations. All reading and visual materials will be available in English and Japanese. In class, lectures and discussion will be primarily in English with some references and explanation in Japanese when necessary. Students are encouraged to develop an interest in exploring reading and visual materials in the liberal arts and take the challenge to express and communicate thoughts and ideas in English. Discussion topics will include happiness, the meaning of work, how to live meaningfully, and the questions of identity, family, and peace.

開講のねらい

The aim of this class is to find a common language that enables us to communicate meaningfully and effectively with people in different fields of interest and occupation, by exploring the universal and humanistic language of international liberal arts. We hope to nurture lively discussions in a bilingual environment, with an emphasis on English.

担当コーディネーター

国際教養学部 国際教養学科 教授

ユー・アンジェラ

担当コーディネーター

グローバル・スタディーズ研究科

国際関係論専攻 准教授

小島 真智子

担当コーディネーター

国際教養学部 国際教養学科 教授

ユー・アンジェラ

良質な
社会に向けた
責任とアクション

1142 がんサバイバーと共に生きる社会を目指して

Diversity & Inclusionという動きはさまざまな分野に広がりを見せています。共に生きる社会を目指すとき、忘れられがちなのは病気のことです。誰でもが病気になる可能性を持っています。日本人が一生のうちにがんと診断される確率は、2019年データに基づく計算では、男性65.5%、女性52.3%と言われています(国立がん研究センター情報サービス)。また、生涯で「がん」で死亡する確率は、男性26.2%、女性17.7%となっています(国立がん研究センター情報サービス)。がんはすっかり身近な病気となりました。その「がん」の治療の進歩は目覚ましく、不治の病から慢性疾患への位置づけを変えてきています。自身が、あるいは家族ががんを抱えて生きることになった時に、どうしたら社会参加への障壁を低くすることができるでしょうか。また、家族の病気をどのように子どもに説明すれば良いでしょうか。さらに子どもががんにかかった場合の教育も大変重要な問題だと思えます。加えて、成長期の子どもががんの治療を受けてその後の長い人生を生きる時、晩期合併症と言われる問題が生じることも明らかになってきました。私たちは、晩期合併症を抱えて懸命に生きている友人に、何ができるでしょうか。この講義では、そのようながんの治療に取り組む大人や子どもとその家族の問題について、一緒に考えてみたいと思います。第一線のビジネスマンにとって、今一度ご自身や家族や家庭を振り返り、あるいは友人のことを考え、正面から向き合う機会にもなることでしょう。またがんを抱えて一緒に生きる仲間たちが生きやすい社会について考えるきっかけとさせていただければ幸いです。

※数字は全て国立がん研究センターがん情報サービス https://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/stat/index.html

開講のねらい

がんサバイバーとして生きる人が多くなっている現在、がんサバイバーに対するさまざまな支援が行われるようになってきています。当事者や周囲の人がそのような支援やその背景にある困難を知ることを通して、さらにできることがないかを考えていくことにより、皆で共生可能な社会を築いていくことができると考えています。

担当コーディネーター

総合人間科学部 心理学科 教授
横山 恭子

1241 ジェンダー、LGBTQと多様性

—信頼できる知を求めて—

ジェンダー平等や、LGBTQと多様性についての知識は、今や社会人にとっては必須のものです。これらについての知識が不足すれば、社内のマネジメントや、国内外の組織や人との交渉にも支障をきたすでしょう。しかしながら、きちんと教育を受けた人も国内ではまだ多くありません。独学で勉強しようとしても、その需要から、これらの分野については、たくさんの玉石混合な情報が、ネットや市中、日常生活のなかにあふれています。必要な情報を取捨選択するための前提知識の獲得、および、さまざまな情報を積み上げるための土台を築くことが本講座の学びの目的です。前半は、ジェンダーについて学びます。どのようなところにジェンダー格差が存在するのか確認するところから始めましょう。また、ジェンダーの異義申し立てはなかったことにされたり、軽く見られたりしますが、それにはどのようなテクニックが用いられているのでしょうか、確認してみましょう。セクシュアリティに関しては、LGBTQ / SOGIEについて取り上げます。[LGBTQ][SOGIE]を学ぶ際に、重要な視点とは一体何なのでしょう。歴史などを簡単に振り返りながら、社会学の知見から、理解されるべきポイントの基本は何であるのかを一緒に確認しましょう。講義では、事前にテキストを配布しますので、できる限り、それを読んできたうえで、講義にご参加ください。

開講のねらい

ジェンダー・LGBTQについて、わかったふりで乗り切ろうとしていませんか？ あなたの周囲や社会をよりよく変えていくために、必要な知を獲得しましょう。

担当コーディネーター

名誉教授
久田 満

1242 障害者の心理学

～差別や偏見のない共生社会の実現に向けて～

いつになってもこの世から偏見や差別がなくなりません。それどころか、ヘイトスピーチやネット上での誹謗中傷、さらには暴動や殺人に至るまで、偏見や差別が元となって起こる悲惨な現象はむしろ増加傾向にあるように思われます。なぜ人は、自分達とは異なる他者(障害者、LGBTQ、他民族、外国人など)を差別し排除しようとするのでしょうか？ この講座では、心理学の視点に立ち、主として心身に障害のある人々を例にして、偏見や差別がどのようなメカニズムで形成されるのかを理解することを目的とします。そのうえで、これまでに試みられてきた様々な差別の解消法について検討します。日本の障害者数は約1千万と発表されています。そのような方々に対して、そうでない人々はなぜ偏見や嫌悪感を抱いてしまうのかという疑問に対する答えを受講者の皆さんとともに考えていきましょう。なお、本講座では「障がい」ではなく、あえて「障害」と表記します。

開講のねらい

今は健康でも、病気やケガ、老化によって誰もがいつかは障害者となり得ます。受講者お一人お一人が自分事として、差別のない社会、すなわち「共生社会」の実現を目指してどう行動するべきかを考えていきましょう。

良質な
社会に向けた
責任とアクション

1243 サステナビリティ社会における企業の環境戦略

～法、政策、最前線の現場から～

ESG(環境・社会・ガバナンス)投資やSDGsの進展により、企業を取り巻く状況は劇的に変わりました。法令遵守以上の取組みを期待する市場や投資家のプレッシャーの中で、これからの企業は、単なる法令遵守に取組むのではなく、市民社会、市場、そして、地球という、より大きな枠組み・コンテキストのなかで、自社の進むべき方向を自ら考えなければなりません。本講座においては、社会的存在である企業の環境活動のあり方を、ESG投資やSDGsという枠組みのもとに位置づけます。そして、毎回の講義においては、それぞれの企業がどのような価値や理念を認識し、どのような意思決定体制を整備し、どのような措置を講じるべきなのかを具体的に検討します。GX(グリーン・トランスフォーメーション)、サーキュラーエコノミー(循環経済)、再生可能エネルギー、生物多様性、SDGsなどについて、それぞれの専門家等を招き、最新動向と企業の在り方を学んでいきます。

開講のねらい

企業の環境戦略を巡る動きが劇的に変化しています。本講座では、GX、サーキュラーエコノミー、再生可能エネルギー、生物多様性、SDGsなどの最新動向を把握し、サステナビリティ社会における企業の在り方を考えます。

担当コーディネーター

法学部 地球環境法学科 教授
北村 喜宣

1244 マジョリティ側からダイバーシティを考える：

特権と立場の心理学

人は誰でもマジョリティ性とマイノリティ性のアイデンティティを持ち合わせていますが、マジョリティ性を多く持つ人は自分の特権(労なくして得る優位性)になかなか自分自身で気づくことができません。自分の特権に無自覚な人の多くは、社会的不平等とはマイノリティ側を不利な立場にするものだと思えたとしても、マジョリティ側を優遇するものだという捉え方はしません。真の意味でダイバーシティを実現するためには、今まで不問にされてきたマジョリティ側の特権や心理的特徴(態度・心理・行動・成長)に焦点を当て、特権を持つ側の責任と課題に迫る必要があります。内容としては、差別に「中立」は存在するか? 「平等(Equality)」と「公正(Equity)」の違いやマジョリティとマイノリティのアイデンティティ発達理論を取り上げます。

開講のねらい

「ダイバーシティについてどこかモヤモヤする」、「自分は何をすべきなのかがイマイチわからない」など差別や公正の課題についてマジョリティ側の立場から考えることで色々なことを発見してもらおうのが狙いです。

担当コーディネーター

特任教授
増山 美佳

1245 人的資本経営と企業価値向上について

～人材の価値を最大限に引き出す～

人的資本経営という言葉が昨今多く聞かれるようになってきました。その背景とその真意を今一度確認することを皮切りに、どのような課題があるかを明確化します。人的資本というと人事部案件のようにとらえられ、処理される傾向もありますが、決してそこで止まる話ではありません。何のための人的資本経営なのか、パーパス、ビジョン、事業戦略との連携がどれだけできているかがまさに問われつつあります。サステナビリティ経営の核となる人的資本への考え方や事例を紹介し、参加者同士のディスカッションの場を設けます。その中で、企業の成長と個人の成長というテーマにも触れていきたいと思います。参加者には、グループセッションでも課題に向き合ってもらい、そこから人材の価値を最大限に引き出すためのヒントを何か一つでもつかんでもらえれば、と思います。

開講のねらい

人的資本経営は日本企業、ひいては日本社会が持続的に発展していくために必須です。なぜ今、人的資本経営なのかを理解するとともに、人材の価値を最大限にいかにつぎ出すのか、個人の成長と企業の成長についても、皆さんと一緒に考えたいと思います。

教養講座

良質な 社会に向けた 責任とアクション

講義1246 SDGs達成のための最新の国際規格を学ぶ

21世紀の国や企業の競争力を高める上で、「サステナビリティ経営」は不可欠な要素となっています。SDGsやESG、気候変動といった社会課題への対応が求められる中、サステナビリティを本業と結びつけ、持続的な成長を実現することが企業にとって重要なテーマとなっています。しかしながら、サステナビリティがCSRやIRの枠にとどまり、本業と十分に連携していないケースも多いのが現状です。そこで本コースでは、2024年にUNDP(国連開発計画)とISO(国際標準化機構)が共同発行した最新の国際規格(ISO/UNDP PAS 53002:2024)をもとに、サステナビリティ経営を実現するための実践的な知識を学びます。コース内では参加者の企業におけるサステナビリティ活動と国際規格で定めている考え方を比較しながら、積極的に自社活動の発表や他参加者とのディスカッションに参加することで実践的な知恵を体得することを目指します。このコースは、以下の方々に特にお勧めです：- サステナビリティやESG活動を推進する担当者 - 社会課題解決型プロジェクトに携わるリーダー - サステナビリティ経営を本業と連携させたい経営者。受講者は、本規格を通じて得られる最新の国際常識を自社内の活動に適用し、競争力を高めるための具体的なアプローチを習得することができます。ぜひこの機会に、サステナビリティ経営の新たな一歩を踏み出してください。

開講のねらい

具体的な社会課題を軸に、毎日がレクチャーとワークショップの組み合わせ(50:50)であり、他参加者との積極的な意見交換や協働作業を通して皆さんの視点を大きく広げていくことを目指します。

担当コーディネーター

特任教授

西口 尚宏

講義1247 社会の中の個人・個人の中の社会： 社会と集団の心理学

私たち人間は、一人残らず他者とともに生きています。その中で様々なやりとりが行われ、私たちは他者から影響を受けたり、逆に他者に影響を与えたりしています。入社した直後に交わす挨拶、新たに加わったチームメンバーに抱く印象、ライバル他社の社員に対する感情、社内での協働などなど…。いずれも社会心理学という学問において、重要な研究テーマとして扱われてきたトピックです。本講座では、特に、他者への印象形成、ステレオタイプ・偏見・差別、集団問題解決と集団意思決定、同調と社会的影響、他者に対する信頼という5つのテーマを取り上げ、社会心理学的な知見を解説します。その上で、皆さん自身の日常に当てはめ、考えてみるという作業を行っていただけます。いずれのテーマも、私たちが日常の中で頻繁に経験していることです。他者に対する思い込みはなくなりませんし、偏見や差別をなくすことも(おそらく)不可能です。集団でディスカッションすることは実は不合理なことがたくさんあります。それでも、そういったことを乗り越えて、より良い社会、より良い人生を求めていくことはできます。そのヒントを提供できるような講座にしたいと思います。

開講のねらい

私たちを取り巻く世界は当たり前のように存在していて、その世界は時には良いものであったり、時には悪いものであったりします。しかしその世界を作っているのは、実は私たち自身なのです。この点を皆さんに実感していただくことが本講座の狙いです。私たちが世界における一人の人間として生きる上で極めて重要なことだと思えます。

担当コーディネーター

総合人間科学部 心理学科 教授

樋口 匡貴

科学から 読み解く社会像

講義1151 先進技術と基礎科学～意思決定の依拠を考察する～

現代社会のいたるところに先進技術が使われています。その背後には基礎科学の原理があり、それを理解することで、なぜある技術が実現され別の技術は実現できないのかわかることがあります。基礎科学の原理を知っておくことは重要な意思決定を行う際も欠かせず、実際、参考文献に挙げた「Physics for Future Presidents」は非常に好評です。例えば、化石燃料がなぜこのように好まれるのかはエネルギーを計算することで簡単にわかります。また、光の速さが有限だと知っておくと、コンピュータの計算スピードや情報の伝達に原理的制限がかかることが自然とわかります。この授業では、先進技術の背後にある基礎科学を核融合や量子コンピュータなどの例をあげながら解説し、基礎科学の理解に基づき意思決定ができることを目指します。また、2024年のノーベル物理学賞、化学賞がAI関連のテーマに授与されたことを踏まえながら、今後なくなる職業の予測、AIを含めた科学技術の今後の発展について考察します。

開講のねらい

現代社会の根幹をなすAIなどのテクノロジーも全て自然科学の法則の枠内で成り立っています。自然科学が現代のテクノロジーにどのように関わっており、どのような制限をもたらしているかを議論します。

担当コーディネーター

理工学部 機能創造理工学科 教授

大槻 東巳

科学から 読み解く社会像

講義1154 実世界データサイエンス入門

～データからインサイトを引き出すカ～

ビジネスを取り巻く環境が劇的に変化するなか、経験と勤に基づく事業運営から、データドリブンの事業運営への大きな転換が進んでいます。この変化に対応するためには、データとAIを活用して有用なインサイトを発見し、課題解決に結びつけるアプローチがますます重要となっています。本講座では、このアプローチを実現するための具体的な手法を紹介し、具体的には、機械学習の基礎や評価手法、説明可能なAIの考え方を体系的に学び、近年ビジネスシーンでの活用が期待される大規模自然言語モデル(LLM)の基礎と研究事例を紹介します。また、各回では実世界の課題への応用例も取り上げ、AI技術がどのように現実の課題解決に役立つのかを学んでいただきます。

開講のねらい

ビジネスの現場で蓄積されるデータは加速度的に増加しています。AIを活用することでどのようなインサイトが引き出せるでしょうか。機械学習から最先端の大規模言語モデルまで活用事例を通じて考察します。

担当コーディネーター

大学院 応用データサイエンス学位プログラム
准教授

深澤 佑介

講義1252 デジタル駆動社会とBeyond 6G(3)

2025年は2030年導入予定の6G通信のアジェンダが発表となる重要な年にあたります。2015年に発表された5G通信のアジェンダに自動車の自動運転が含まれたことで、その後の産業界は大きな変革を迎えました。6Gのアジェンダにどんなトピックが含まれるかで、その後の技術の普及が決まるといっても過言ではありません。本講義では、6G通信のその先の2040年以降の時代をBeyond 6Gと呼び、15年以上先の未来の技術について紐解くことを目的としています。今後もデジタル技術が深化・定着し、データ利用が浸透したデジタル駆動社会の実現に向けて、通信・メディア情報処理・AIなどのIT基礎技術のさらなる発展と、それらの技術の脳科学・生物学などへの応用の拡張が期待されています。これらのキーワードに基づいた3人のゲストスピーカーとコーディネーターによる6回の講義内容は毎年更新しておりますので、過去に当コーディネーターの講座を受講した方も受講いただけます。

開講のねらい

当講義は、進歩が早くキャッチアップの難しい最先端情報通信技術と、全体像がわかりにくい情報通信産業の現状とを、6回の講義で効率的かつ効果的にお伝えできるよう工夫を行なっています。45分の講義と45分の講師とのQ&Aを通して、ご不明な点を解消し、ご興味を持ったトピックをより深く理解ください。

担当コーディネーター

理工学部 情報理工学科 教授

矢入 郁子

講義1253 変動する地球環境の中で生き残りをかけて： 食料と環境の科学概論

現在地球上には約80億人が暮らしており、2050年には90億人に達すると言われています。私たちの活動はこの一世紀で爆発的に成長し、今や地球環境を脅かすに至っています。このような状況は、「CO2を吸収し食糧を生み出す植物」と「食糧を消費しCO2を放出する人類」の活動のバランスから視ると理解しやすいように思われます。地球環境問題への取り組みというと、COP、京都議定書、パリ協定等の言葉を思い浮かべる方が多いと思います。様々なメディアを通して地球の今が語られ、新たな取り組みが紹介されています。環境問題への取り組みについても、今すぐに来ること、遠い将来を見据えて出来ること、様々な内容が同次元で語られています。しかし、実際の科学研究という視点から見たら何が見えてくるのでしょうか？ この講座では、食糧と環境という生命の維持存続に関するキーワードを中心に、各講演者がそれぞれの分野の今について概説します。遺伝子組換え植物がどのように作られるのか？ そしてどのようなメリットやデメリットがあるのか？ 地球環境の変化がどのように生物や人に影響を与えているのか？ ニュースで伝えられる事実の表と裏など、それぞれの立場で話をします。

開講のねらい

本講座では、急速な人口増加と環境変化に着目し、科学的な知識を通じて持続可能な未来を構築するための知識を提供します。参加者はこれらの問題に関する包括的な理解を得て、未来を切り開く力を磨くことが出来ます。

担当コーディネーター

理工学部 物質生命理工学科 教授

神澤 信行

教養講座

科学から 読み解く社会像

講義1255 現在・過去・未来をつなぐ生命科学概論

遺伝子組換えとゲノム編集、iPS細胞、ウイルス感染、PCR検査など、日々のニュースや報道の中でも生命科学に関わる内容が数多く取りあげられています。先端研究は驚くべきスピードで進歩しており、そこにはビジネスチャンスも数多く含まれていると考えられます。科学、特に生命科学の研究は一つの研究室の中に閉じられたものではなく、その成果は我々の日常生活に密接に繋がるものであり、またそこに国境はありません。このことは何を意味するか?私たちがこれからの社会のあり方に対してより正しい判断、意思決定をしていくためには、これらの日進月歩の研究内容を理解し、生命科学が私たちに何をもたらすのか、私たちの未来をどのように変えていくのかを考え、使いこなす力が求められています。本講座では、先端生命科学研究の内容の基礎を解説するとともに、その技術がもたらす社会の変革に対していかに判断し、意思決定をしていくのかを科学史に残る過去の事例をもとに考えます。

開講のねらい

抗原検査などが日常化し遺伝子組換え作物が食卓に上る現代、文系理系を問わず社会のあり方や意思決定に必要な先端生命科学の基礎的な理解とその技術がもたらす社会変革を考えることを目指します。

担当コーディネーター

理工学部 物質生命理工学科 教授
齊藤 玉緒

交渉のための 論理と批判

講義1161 交渉学入門：より良いネゴシエーターとなるための理論とスキル

私たちの生活は無数の交渉から成り立っています。より良い交渉ができることは、大きな強みとなりますし、逆に、交渉力がなければ、どれだけ良い知恵・アイデア・リソース等を持っていたとしても、それらを十分に活かすことは難しくなります。交渉には、取引先との価格や取引条件の交渉、トラブルを解決するための交渉、組織内での交渉、外交交渉、日常生活での交渉、代理人を介した交渉など、多様なものがありますが、どのような交渉に臨む場合であっても理解しておくべき基本、身につけておくべきスキルがあります。本講座では、より良いネゴシエーターとなるために理解しておくべき基本的な概念・枠組みやその活用の仕方、交渉を通じて価値を創造し分配するための視点やスキル、より良い交渉に役立つコミュニケーションのためのポイント、交渉に影響を与える人的な要因と対処法、交渉のプロセス、難しい交渉に対処するための手掛かり、多数当事者交渉のポイント等を学びます。講座は、①理論・枠組み・スキルについての講義、②講義で学んだことを実践するロールプレイ、③参加者間のディスカッション等を組み合わせて講座を進めます。参加者の方々の主体的な参加が求められます。

開講のねらい

よりよい交渉を行うためには、経験も必要ですが、研究の成果も踏まえたセオリーを理解し、スキルを身につけることが有用です。この講座でそれらを得て頂き、日々の交渉に役立てて頂きたいと思ひます。

担当コーディネーター

法科大学院 教授
森下 哲朗

講義1162 グローバルコミュニケーション・リテラシー ～グローバルメディアの変容と相互理解

グローバル化が進むなかで、私たちは、必然的に、言語や民族、文化、そして、政治経済的なシステムが異なる社会に暮らす人たちの相互理解を求められる機会が増えてきているのは確かです。本講義では、「グローバル化の進展」と「相互理解」をキーワードに、20世紀にグローバルなメディア・システムがどのような歴史的な経緯を経て生成・発展してきたかを踏まえつつ、近年のデジタル・メディアが普及・浸透するなかで、既存のメディア・システム、ジャーナリズムが直面するさまざまな問題や課題、また、国際的なコミュニケーションにおける社会・文化的な違いから派生する誤解(コミュニケーション・リスク)などについて、理論と現場の実例から検証します。また、グローバルなデジタル・メディアがシステム形成されつつあるなかで生じている課題と可能性について、日本からの国際発信や、西側先進諸国に拠点を置くメディア・コングロマリットの展開といった実例などを挙げながら、グローバル・メディアのあり方についても分析・検証していきます。その上で、現代のグローバル・メディア、グローバル・コミュニケーションに求められるリテラシーについて考えます。講師には、国際的な報道現場で活躍してきたジャーナリストや、先進主要国のメディア戦略を研究してきたメディア研究者、実際にメディア・コンテンツのグローバル展開に携わってきたメディア事業経営者などに登壇いただき、理論的な視点と実務経験・実践的な視点を踏まえながら、講義を進める予定です。

開講のねらい

「グローバル化の進展」と「相互理解」をキーワードに、民族、宗教、文化、体制などの違いに私たちはどう向き合ってきたのかについて、メディア・コミュニケーションの理論と現場の実例から検証します。

担当コーディネーター

文学部 新聞学科 教授
音 好宏

交渉のための 論理と批判

講義1163 講義1261 質問力を磨く【入門編】～脱・思考停止～

担当コーディネーター

特任教授
松本 美奈

思考は質問で始まります。皆さんの中で眠っている質問力を揺り起こしましょう。まずは職場も含めた社会全体に目を向けます。「自分以外の誰かになりきって」新聞を読み、疑問を言葉にするところから始めます。講座はグループワークを中心に進めていきます。〇〇社の△△という肩書きを教室の外に置いてきて、床に座り、仲間と視線を合わせ、対話を重ねていきましょう。質問には解が必要です。これも仲間と一緒に対話しながら、言葉にいきましょう。「自分以外の誰か」になって自分を見たら、どんな問いが浮かんでくるでしょうか。これが次のステップです。※各回の内容は変更することがあります。

開講のねらい

私たちの脳は「ラク」が大好きです。「質問なんて恥ずかしい」「相手に悪く思われるかもしれない」…。私たちはさまざまな思いから、質問をためらい、胸の奥にしまいがちです。それが私たちの脳をさらにナマケモノにします。脳をフル活用できる質問力を磨きましょう。

担当コーディネーター

法科大学院教授 特任教授
森下 哲朗／島田 久仁彦

講義1262 ロールプレイで学ぶグローバル交渉力

ビジネスを素材とした交渉ロールプレイを通じて、実務に役立つより良い交渉のためのポイントを学びます。冒頭で、特に重要な幾つかのポイントを確認したのち、ロールプレイを2回程度実施します(2当事者間交渉、多数当事者間交渉の双方を行います)。ロールプレイはチーム単位で行い、チーム内での準備のための議論、実際の交渉、交渉後の振り返り等を行います。こうしたプロセスを通じ、よりよい交渉の準備のための留意点、交渉の現場における効果的なコミュニケーション、難しい場面への対応、よりよい合意形成のための知恵等を学びます。ロールプレイの言語は日本語または英語を選択可能です。全体でのディスカッションは日本語で行います。プログラムの大半は、参加者によるロールプレイと参加者同士、参加者・講師間のディスカッションで行われますので、積極的にロールプレイやディスカッションに参加していただくことが必要です。なお、予習課題として、交渉に関するビデオ教材(3時間程度)を視聴したうえでご参加を頂きます。

開講のねらい

よりよい交渉のためには、経験を重ねるだけでは不十分です。よりよい交渉を行うための基本的な知識を備えるとともに、問題意識を持って練習する、練習の結果を振り返り、良く出来た点、改善を要する点を振り返ることが重要です。このクラスは、そのような練習と練習の振り返りを通じ、参加者の交渉力を高めることを目指します。

スペシャリスト養成講座

スペシャリスト 養成講座

講義2101 交渉力を磨く～人を動かす究極の交渉・ コミュニケーション術：“納得”の導き方～

担当コーディネーター

法科大学院教授 特任教授
森下 哲朗／島田 久仁彦

「あれ、ちゃんと合意したのに相手がいつまでもたっても合意内容へのコミットメントをしてくれない」「いいアイデアはあるのだけれど、どう説明したら周りの人たちからサポートを得られるのだろうか」「どうすれば、自分の言いたいことを相手に的確に伝えることが出来るだろうか」「相手が本当は何を考えているのだろうか?」日々のお仕事や生活の中で、そのようなお悩みをお持ちではないでしょうか。また「自分は交渉やコミュニケーションが苦手だ」とお感じになっていて、お仕事や日常生活において交渉を極力避けようとしているかもしれません。交渉とは、結果を伴うコミュニケーションであり、「自分が欲しいものを手に入れるために行う」行為です。それは、つまり、「交渉を通じて、相手から、あるいは相手と共に、欲しいものを手に入れること」を意味します。本講座では、「交渉において自分が目指すゴールをいかに効率的に手に入れることが出来るか」、そして「いかにして自らの目的の達成を、当事者間の納得の下、行うことが出来るのか」というリーダーのための究極の交渉・コミュニケーション術を理論と実践を通して身につけることを目的としています。ケーススタディを通じて、より実践に近い交渉を実際に体験していただきつつ、行動心理学に基づく心理の理解と交渉テクニックを組み合わせた【明日からすぐに使うことが出来る“行動心理に基づいた交渉・コミュニケーション術”】を身につけていただけます。ぜひ本講座を通して、必ず結果を残すことが出来るネゴシエーターへの変貌を遂げていただければと願っています。

開講のねらい

優れた交渉力は仕事や日常生活をより実り多いものとするうえで重要です。交渉のプロフェッショナルからより良い交渉のためのポイントを学ぶことで、自己流の交渉から卒業し、交渉の達人を目指しましょう。

スペシャリスト養成講座

スペシャリスト 養成講座

講義 2102 傾聴力を磨く

～部下のため、部署のため、そして会社全体のために～

「部下が何を考えているのか分からない」「定期的に面談しても本音を話してくれない」と悩んでいる上司の皆さん。そうになってしまうのはあなたのコミュニケーションスキルが足りないからです。コミュニケーションの基本は相手の言葉に耳を傾けること、即ち傾聴することです。この講座は企業の管理職(実際に部下をもっている人)を対象として、部下の「心の声」を聴ける能力、すなわち傾聴力を身につけることを目的としています。教科書は使いません、講師の解説も最小限に留めます。ただひたすらスキルを磨きます。ロールプレイを中心として、毎回、全受講者の前で実演して頂きます。言語的コミュニケーションだけでなく、「沈黙」といった非言語的コミュニケーションにも注目して頂きます。なぜなら非言語的コミュニケーションの方が真実を語っていることが多いからです。

開講のねらい

傾聴力は部下、そして同僚や上司との信頼関係の構築に有効な能力です。その傾聴力であなたの管理下の部署を、そして会社全体をより良い方向に変革していった欲しいと思います。

担当コーディネーター

名誉教授

久田 満

講義 2103 イノベーション経営のプロフェッショナルになる

イノベーションを通じた社会的価値の創出や組織の成長は、すべての国・産業において優先順位が高まっています。昨今ではスタートアップ企業によるイノベーション活動に注目が集まっていますが、既存組織によるイノベーション活動も同様に重要であるにも関わらず、その成功確率が低いのが実態です。この課題に対処するため、2008年からヨーロッパを中心に「イノベーション経営」の国際標準化が進められてきました。その結果、2019年に産業史上初の「ISO56002: イノベーション・マネジメントシステム(ガイダンス規格)」が発行され、2024年には認証規格「ISO56001」が発行されました。欧米においては、この規格発行をきっかけに「イノベーション経営プロフェッショナル(イノベーション経営プロ)」という新たな職業も生まれつつあり、各国でその育成に注力しております。当講座ではイノベーション経営プロの育成に焦点を当てます。当講座の講師は、約10年間ISO56000シリーズの開発に一貫して関わり、大半の規格本文の原案作成から一語一句の国際交渉に直接関与してきた唯一の日本人であり、規格の中身を知り尽くしており、スウェーデンの国立研究機関であるRISE (Research Institute of Sweden) からイノベーション・マネジメントプロフェッショナルの公式認定を受けています。対象者は、経営者、新規事業担当者、研究開発部門のリーダーなど、イノベーション推進に関心のある全てのビジネスパーソンであり、欧米に急速に広がつつある「イノベーション経営のプロ」としての実践的な知識とスキルを習得し、自社変革をリードする力を身につけてください。

開講のねらい

「組織からイノベーションを継続的に興えるようになりたい」。そのためには世界ですでに当たり前になっているイノベーション経営の考え方を身につける必要があります。当講座を通して今までの常識をひっくり返し、皆さんがイノベーション経営のプロになることを目指します。

担当コーディネーター

特任教授

西口 尚宏

講義 2104 国際会計～IFRSの会計情報とグローバル企業の財務分析～

企業の持続的成長を進めるうえでは、グローバル市場の急激な変化に対応するための適切な市場進出と事業展開を行うとともに、国内外の投資家からの積極的な資金調達が重要です。近年では、グローバルスタンダードであるIFRSの会計基準に準拠した財務情報に加えて、SDGs関連の非財務情報の適正開示も、企業には強く求められる状況にあります。本講義では、グローバル企業の会計情報にフォーカスして、企業の会計情報の適正開示の方法を検討するとともに、グローバル企業の公表会計情報から直近の経営・会計戦略の動向を分析することを目的とします。また、ゲスト・スピーカーには、経営の現場視点からのグローバル企業の現状を紹介して頂いた上で、受講者とのディスカッションを通じて、日本企業におけるグローバル化の意義について検討することを目的とします。

開講のねらい

企業の経営層として活躍する上では、グローバル企業の様々な戦略策定を会計情報から適切に分析する視点が必要不可欠です。本講義では、そのスキルの習得を目標に、講義を展開しています。

担当コーディネーター

経済学部 経営学科 教授

西澤 茂

スペシャリスト 養成講座

講義 2202 企業のパラダイムシフト：

変化する世界情勢、拡大する環境問題の中、持続可能な社会に向けて
企業に求められる変革

現在、企業活動を継続していくためには「環境」への配慮は不可欠です。しかし、その対応もCSRからCSVへ、さらに持続可能性をコンセプトとしたSDGs、ESG、グローバルコンパクト、TCFDと様々です。こうした中で、企業はどのように変化する「環境」に対応していくのか、環境を巡る企業のパラダイムシフトのあり方とはどのようなものか、真剣に考えていかなければなくなっています。特に、ウクライナやパレスチナ情勢、トランプ政権の復活など、コロナ以降加速度的に変化していく世界情勢、それにともない変化する価値観に企業としてどのように対応していくのか、海外の動向もふまえ、変化する環境に流されることなく、そこにポジティブな意義を見出していかなければなりません。そのためには、変化の潮流を正しくつかむこそが今まさに企業に求められているといえます。本講義では、企業活動にとって影響の大きな様々な分野、地球環境問題はもちろん金融と環境、生物多様性、プラスチック問題、サーキュラーエコノミー、地域活性化、市民対話について、その分野を代表する専門家による最新の情報を提供していただくとともに、カードゲーム、グラフィック・ファシリテーション、ワークショップなどを通じて、双方向のダイアログを図りながら企業のパラダイムシフトについて一緒に考えていきたいと思っています。

開講のねらい

変革する社会の中で、あらゆる場面で持続可能性が企業に求められています。持続可能性も多様化していく中で、どのように持続性を確保していくのか、様々な分野の様々なプロフェッショナルからアイデアいただき、自分の気づきに結びつけ、それを自社に持ち帰っていただくことを狙っています。

担当コーディネーター

特任教授

百瀬 公朗

講義 2203 AI・データサイエンスの実践

—生成AI時代のデータサイエンス—

総務省が発表した2024年版情報通信白書によると、日本の個人における生成AI利用率はわずか9.1%にとどまっております。他の先進国と比較して大きく後れを取っていることが明らかになりました。また「積極的に活用する方針」と回答した企業の割合も、日本は15.7%にとどまっております。中国(71.2%)や米国(46.3%)を大きく下回っています。これからは勇気をもって活用する必要があると考えこのコースを開講いたします。このコースでは生成AI活用のみならず、活用のための企業におけるデータリテラシー、生成AIやデータサイエンスを活用するクラウド基盤、業務プロセス可視化のプロセスマッピングについても、必要な知識は何か、成功するために何が必要かを明確にし、次にさまざまな分野とバックグラウンドの専門家がサービスやプロダクト構築・展開の経験を講義いたします。生成AI時代がいかにAI・データサイエンスでビジネスを変革していくために必要となる知見を提供いたします。

開講のねらい

生成AI時代におけるAI・データサイエンスについての本来的な意義と活用について、最先端の現場で活躍しているデータサイエンティストおよび実務家が実践的な講義を行います。

担当コーディネーター

名誉教授

私市 正年

講義 2204 中東問題の理解

—マイノリティー集団から考える共存、多様性と排除、分裂

中東諸国にはいわゆるマイノリティー集団が存在するが、それは宗教的であったり、民族的であったり、また政治的であったり、非政治的であったり、さらに政権を担っていたり、少数派としての地位を強いられていたり、といった具合に多様です。今日の世界情勢をみると、異なる集団が互いに共存よりも排除していく方向性、特定の集団がますます内向きに自己主張を強めていく志向性を感じられます。このような現象をどのように捉えたらよいのか。本講座では、中東におけるマイノリティー問題を手がかりに、紛争や混乱といった面だけでなく、その中にある共存や多様性の可能性といった側面にも目をむけつつ、マイノリティーが関わる政治と社会の諸問題を考えてみようと思います。対象とする国とマイノリティー集団は、アルジェリアのベルベル人、トルコのクルド人、アフガニスタンのパシュトゥーン人、エジプトのコプト、スーダンの非アラブ系民族、レバノンのキリスト教徒、シリアのアラウィー派、イスラエルのアラブ人です。なお、毎回、事前課題資料と課題が送付されます。また講義で行われる討論では受講生は積極的な発言を求められます。

開講のねらい

本講座では、「中東問題」の背後にある多民族、多宗教の共存や対立の実態をマイノリティー問題から考えることと、今日の世界情勢の中で目立つ、共存よりも排除、特定の集団が内向きに自己主張を強めていく志向性の問題点を検討することを目的とします。

スペシャリスト養成講座

スペシャリスト 養成講座

講義2205 質問力を磨く[実践編]～脱・思考停止～

意見の異なる人と、どのように向き合ったらいいでしょうか。できれば合意を形成したいですね。きっかけをつくってくれるのは、あなた自身の質問力にあります。質問力を磨き、考え、合意形成をめざしてみましょう。そのために必要なのは、一緒に学ぶ仲間です。属性も肩書きも放り投げて、仲間と対話を重ねましょう。ひとりではつかめなかった問いを手にすることができます。新たな問いは、合意形成に向けた新たな道筋を示してくれます。※[入門編]未受講の方も受講可能です。各回の内容は変更することがあります。

開講のねらい

質問は「恥ずかしい」ことではなく、「面倒なもの」でもありません。私たちが新しいことに気づく発見の糸口です。自分自身も気づいていない自分の可能性を見つけるために、質問力を磨きます。

講義2206 ローマ教皇と教皇庁から探る、 深層のヨーロッパ政治・宗教・文化

現在、国際情勢は目まぐるしく変化しています。各国は国際情報戦に大きな関心と努力を注いでいます。そうした国際情勢の中、外交政策などにおいて特に注目すべきは、世界最小の主権国家「バチカン」です。経済力も軍事力もささない小国バチカンが、現代国際政治の中で大きな影響力を発揮しているのは、その「ヒューミント」力、すなわち、政策担当者間の個人的・人間的つながりによる外交力に他なりません。その世界最小にして、最大の国際的影響力をもつ国家、「バチカン」について、歴史、宗教、外交、政治などの多角的側面から、各分野の第一人者を講師に招き、ともに議論を深めます。

開講のねらい

国際関係は、主として莫大な予算と規模、そして力関係でとらえられることが通常です。しかし、「バチカン」の例外を通して、国際的な影響力が発揮されることがいかなることかと問い、それは、ひとえに「人間」関係構築につきるということを理解できればよいと考えています。日本の社会人にとってこの例外「バチカン」の存在が何らかのヒントを与えることでしょ。

講義2207 人工知能：基礎と応用

～人間と人工知能の相乗効果を引き出すために～

人工知能(AI)は比較的新しい学問ですが、その活用領域は予測、意思決定、自動化、最適化など多岐に亘って急速に拡大しています。AIと人間にはそれぞれ得意分野があります。例えば、大規模なデータからインサイトを引き出す、あるいは大量の条件から最適解を求める、などはAIが得意です。一方で、様々なコンテキストを読み取る、あるいは一度経験すれば次に応用可能な多くの知識を学ぶことができる、などは人間は得意ですがAIは苦手です。これからの時代では、人工知能の得意・不得意を理解し、人間と人工知能の相乗効果を引き出すことが、社会課題やビジネス課題の解決に重要になります。この講座では、まず、人間が持つ能力(認識、予測・判断、生成、身体・運動、言語・知識)が、どのように人工知能で実現されているかを学びます。そして、それらの能力を使った課題解決の実例を通じて、自らの専門分野へのAIの応用基礎力を養います。

開講のねらい

AIの急速な発展により社会システムの在り方が大きく変わりつつあります。社会で人工知能が登場する場面が増えていく中、どのように人工知能を理解し、どのように付き合えば相乗効果を引き出せるのでしょうか。

担当コーディネーター

特任教授

松本 美奈

担当コーディネーター

文学部 史学科 特別契約教授

川村 信三

担当コーディネーター

大学院
応用データサイエンス学位プログラム 准教授

深澤 佑介

担当コーディネーター

特任教授

山本 誠一郎

担当コーディネーター

外国語学部 英語学科 教授

飯島 真里子

担当コーディネーター

名誉教授

久田 満

担当コーディネーター

地球環境学研究科 地球環境学専攻 教授

織 朱實

特別講座

特別講座

講義5101 ビジネススキルを磨くアート思考

この授業では、ビジネスパーソンが日々のビジネススキルを磨いていく上で必要なアート思考について学びます。まずは、そもそもアート思考とは何か?について、具体的なアート作品を事例に紐解き、デザイン思考との違いについて議論します。そして、今なぜアート思考も必要なのか?について、米国型MBA教育の実例やビジネス事例を紹介しながら、論理的思考の限界や課題を整理し、議論していきます。さらに、どのようにアート思考を身につけるのか?アート思考をどうビジネスに応用していくのか?について、人間の本質に関する考察を踏まえ、イノベーションの観点も交えながら、議論していきます。全体を通じて、ビジネス実践智の視点を大切にリベラルアーツを題材に授業を行います。

開講のねらい

ビジネスパーソンの多くは、日々の業務に忙殺されているのが現状かと思えます。業務を行う上で必要なビジネススキルを身につけることは大切ですが、短期的な目標達成のための手段に偏りがちで、企業のビジョンを見据えた創造的な視点を見失いがちです。この授業では、変化の激しい時代に求められる智について、アート思考の切り口を用い、紐解くことをねらいとしています。

講義5102 コナコーヒーのグローバル・ヒストリー：

人、モノ、ブランドの重層的移動史

ハワイ島コナ地区で栽培されるコーヒーは、ブルーマウンテンやキリマンジャロと並び、その希少性と高品質から世界的に高級コーヒーとして知られています。しかし、この小さな産地のコーヒー栽培は、グローバルな歴史と深く結びついています。第一回では、コナコーヒー農家の多くを占めていた日系移民に焦点を当てます。19世紀末から24万人の日本人がハワイへ移民しましたが、なぜその一部がコナでコーヒー栽培を始めたのか、その背景を探ります。第二回は、現代のコナコーヒー産業が直面する課題を考察します。「スペシャルティコーヒー」概念の台頭は、コナコーヒーを単一品種の高級商品として売り出すことを後押ししました。しかし、この変化は、「オーセンティシティ(本物)」の証明という新たな課題をもたらしました。この講義では歴史的な視点から現代の課題まで、グローバルな側面からコナコーヒー産業とそれを支える人びとについて掘り下げていきます。

開講のねらい

歴史というと、偉人や年代を覚える学問と思われがちです。本講義では、権力者の歴史には登場しない「普通の人びと」に注目します。また、ローカル社会とグローバルな移動・現象との連関を歴史的に考察します。

講義5103 傾聴力を磨く

～部下のため、部署のため、そして会社全体のために～[上級編]

この講座は、これまでに「傾聴力を磨く」を受講した人を対象として開講します。もう一度、原点に立ち返って、日頃の自分を見つめ直しましょう。

開講のねらい

もしかして錆びかけ始めた傾聴力を再度磨き直し、より高いレベルを目指します。

講義5201 多様性の時代の企業のパラダイムシフト：

変化する世界情勢、深刻化する環境問題の中、持続可能な社会に向けて女性経営者の視点からヒントを考える

ウクライナ、パレスチナ情勢、トランプ政権の復活、深刻化する地球環境問題、刻々と変化する世界情勢の中で企業はどのようにパラダイムシフトを行っていくべきか。様々な価値観、多様性と柔軟性が求められる現代社会において、異なる分野で活躍する女性経営者の視点から、変化の世界に対応する企業マネジメントのありかたのヒントをさぐります。本講義では、伝統文化と持続可能性として、(株)宗家花火鍵屋15代目の花火師 天野 安喜子さん、新しい持続可能なファッションのありかたを提示してくれているkay me(株)社長 毛見 純子さん、絶滅危惧種となっているガラス瓶を使用しながら持続可能な容器を模索するホッピービバレッジ(株)社長 石渡 美奈さん、それぞれ分野の異なる3人の経営者から、企業のパラダイムシフトのヒントを探ります。

開講のねらい

世界が大きな変革に向けて動いていく中、多様性がより大きく求められています。そうした中、女性経営者と言う視点から、持続可能なファッション、持続可能性と日本文化、持続可能な飲料についてそれぞれ語っていただきます。異なる分野の経営者のトークから視点、新たな持続可能な企業のあり方が提示されるでしょう。

ARCHIVES

2024年度開講講座

受講者の声

受講者アンケート回答から抜粋

仕事に生かす哲学的対話

～深く豊かな思考のために／寺田 俊郎

今の仕事から「哲学」は縁遠いものと捉えてきましたが、講座の中で「哲学的対話」を繰り返す中で、私には気付きもなかった視点・考え方に触れつつ、折々に自身自身で問いを深く考える機会をもつことができること自体が、大変有意義でした。また講師や他の受講者との生のやりとり自体が、リモートばかりの仕事をしていた私には新鮮でした。この経験は私にはタイトル通り「仕事に活か」せそうですし、是非そうさせたいと思っています。

グローバル組織が直面する文化摩擦とその克服

～ローマ・カトリック教会の世界伝道の試行錯誤に学ぶ～

山岡 三治

山岡教授のキリスト教のお話、そして実際に原住民と宣教師達が作りあげた伝道村の事、世界平和を目指しながらも、現在おきている戦争そして難民問題…いろいろな世界状況が混濁する中で、自分に何かできる事はないかと考えさせられました。有意義な時間をいただいて講師の先生方にとても感謝しています。

グローバルリスクと戦略的コミュニケーション

国枝 智樹

戦争・AI・感染症・企業不祥事など直近の題材を交えながら、パブリックリレーションの在り方について多面的に考えるきっかけとなった。事例のみならず、社会的責任の歴史的な成り立ちや、広報において認識しておくべき心理学的な理論の紹介なども興味深かった。

海と安全保障／都留 康子

日本にとっての海と安全保障の重要性の認識を改めるとともに、現に周辺国との緊張が高まる中で、法制度の状況や対処方法からサステナビリティの切り口まで、海を軸に様々な角度から、日本および世界の現状を認識することができ、大変有意義でした。

がんサイババーと共に生きる社会を目指して／

横山 恭子

がんや病気のことを知り、家族や知人・同僚・周囲の人の気持ちに少しでも寄り添った行動ができるよう、これからも学び続けたいと思いました。

障害者の心理学～差別や偏見のない共生社会の実現に向けて～

久田 満

障害者をとりまく環境について理解を深めるとともに、ご家族や兄弟の心理や環境についても学ぶことができました。一つのカテゴリーで障害者をくくるのではなく、個々人として接することが大切であると感じました。

人間学と地域循環共生圏

～ともに生き、学び、働く／吉川 まみ

同じ企業で長く働いていると、知らぬ間に凝り固まった考えができていたと気づき、人間のつながりや役割について考えを改める機会となりました。上智大学ならではのキリスト教人間学を受講できたこと、受講生同士の親交を深められるような構成にしてくださいましたことに感謝しております。

身体知の実践～ソマティックな人間観に依拠して～

鈴木 寿

自分が体を通して感じ積み重ねていく体験・経験、人間が集いふれあうことで生じる他人のぬくもりや感情・場の雰囲気など、言葉にはできない自分の体で感じる何ものかがあり、今までの自然科学の枠組みでは振り落とされていたり言語化できない大事なものがあつたことを改めて認識しました。

アジアの宗教と社会／寺田 勇文

いずれの講師も非常にフラットな宗教観のもと講義を行っており、キリスト教というフィルターを宗教間の対比にうまく活用されていて非常にわかりやすく、宗教に関する理解を深めることができ非常に有益な時間でした。

世界から見た日本文学と美術

ユー・アンジェラ

海外で高く評価された美術・日本映画・ノーベル文学賞受賞作品など、知ってはいたがきちんと見てこなかったものを海外の視点から考察することで、日本の文化について改めて考え直す良い機会となりました。

Understanding the World in the Language of International Liberal Arts

ユー・アンジェラ

何より、人文系の英語で行われる講義に参加し、内容を十分理解できたことが収穫でした。3日間行われた講義はいずれも興味深く、特に最終日にJohn LennonやBob Dylanについて聴講、議論できたのは幸せでした。他社の出席者もレベルが高く、非常に刺激を受けました。

イノベーション・マネジメントプロフェッショナルになるための基礎を身につける

西口 尚宏

イノベーション・マネジメントにかかる学びが充実していたことはもちろん、他の参加者との議論を通じて考えることができ、マネジメントそのものについての示唆も多かったです。テクニカルなマネジメントスキルではなく、自身で考える機会を得られ、学びの多い学習でした。

サステナビリティ社会における企業の環境戦略

～法、政策、最前線の現場から／北村 喜宣

今や企業活動に欠かせない企業原理であるサステナビリティについて、その背景・政策内容から様々な取組動向・実務面までを網羅的に学ぶことができ非常に有意義でした。様々な立場の講師の方からあらゆる角度で講義をいただくことで、通底するものを認識できると同時に、各領域における知見を深めることができた点でも学びの大きいものでした。

SDGsを哲学する～平和・平等・正義・幸福・公共・

ケアを考える／大橋 容一郎

「哲学」に初めて触れました。私の固定観念を打破する内容であり、他の参加者の意見も聞くことができ、とても有意義な体験ができました。また、深堀りして考える機会となり、全く想像のつかない考え方が多々あると思えました。

伝統文化から見た日本／長尾 直茂

表面的な知識しかなくとも、様々な文献資料や題材を通じ、日本人の気質について新たな視点でわかりやすく学ぶことができました。またグローバル化が進む中、自国のことにもっと関心を持つ必要があると感じました。

イスラム諸国の宗教と政治

～建国のリーダーの理念と現実／私市 正年

イスラム教の様々な国についてご教示いただいたことで、自分の中では一括りになっていた国々に、かなりの違いがあることが理解できました。各異なる先生方に教えていただいたこと、私市先生と講師の先生方の意見交換をお聞きできたこと、研究者の色々な視点に触れることができ、興味深かったです。

フランス文学を短編で読む

～文学で人と社会を読み解く／永井 敦子

フランス文学という仕事とは全く関係がなさそうなジャンルながら、そこに魂を掛けて研究する研究者の先生方が、文学という捉えにくいものを、どのようなフレームで捉え、分析し、受講者（＝顧客）の納得感を醸成していくか、というプロセスは、ビジネスにおけるゼロからイチを作り出すプロセスと似ているように思えました。ぜひ新規事業開拓を担当する方への受講を勧めたいです。

社会課題を起点とするイノベーションの興し方

～当該分野の国際規格の世界動向も学びながら／西口 尚宏

イノベーションという、もともと関心が高かったテーマについて先生がわかりやすく気さくに講話してくださいました点、チーム単位で進めることで議論と交流を深めることができた点が良かったです。全チームがテーマを能登震災に揃えたことで、他チームの発表を自分たちの議論と比較しながら聞くことができたのも良かったです。

ジェンダー、LGBTQと多様性

～信頼できる知を求めて／石井 由香理

非常に勉強になりました。人事部やダイバーシティからの参加が多かったのですが、その他部門の方々も参加すべき授業であると感じました。

マジョリティ側からダイバーシティを考える：

特権と立場の心理学／出口 真紀子

特権側（マジョリティ側）の立場を知ること・考えること、国際的なデータ、男性特権の近年の傾向など、これまでにない視点・知識をインプットでき、とても有意義に感じました。短時間（2日間）にポイントが凝縮されていただけでなく、他大学の教授からの講義もコーディネートいただき、様々な視点・論点があり、とても面白くありがたかったです。



人的資本経営と企業価値向上について

～人材の価値を最大限に引き出す～増山 美佳

増山先生による、人的資本経営に関する視座の高い講義を受講させていただくことができ、大変勉強になりました。外部講師による講義についても、日本のトップクラスの人的資本経営に関する取り組みも知ることができました。グループワークでは、他の受講生の方々と意見交換もすることができ刺激にもなりました。

先端技術と基礎科学～意思決定の依拠を考察する～

大槻 東巳

何十年ぶりかの物理化学で難しい話もありましたが、生成AIやサララップのお話など、身近な話とセットで説明くださり毎回楽しく拝聴させていただきました。弊社も内閣府のリコチャレに参加していますが、今回のような物理化学を身近に感じられる授業ですと、自然と理系に興味を持つ学生が増えるのではないかと感じました。貴重なお話ありがとうございました。

実世界データサイエンス入門～データからインサイトを引き出すか～

深澤 佑介

本講座にて学んだことは、データ分析において、基礎データに対し、自然言語処理を用いてLLMに実装した方が、精度があがる(特徴量の捉え方などがブラックボックスであるというデメリットがあるが)ということが理解できたので勉強になりました。弊社において、グループ会社には専門部隊がありますが、私が所属しているのはユーザー企業であることから、データサイエンティスト需要はあるとおもわれるため、勉強し活用することでスキルアップを図りたいと思います。

現在・過去・未来をつなぐ生命科学概論

齊藤 玉緒

苦手意識のある理系分野の講義をあえて受講しましたが、生命科学の進歩やそこに介する課題を知ることができ、学びを深めることができました。分野を問わず興味を持ち、自分の意見が構築できるだけの基礎教養を持つことの重要性を再認識しました。

デジタル駆動社会とBeyond 6G (2)

矢入 郁子

普段の業務と直接的に関係しない内容で、今後6Gの世界がやってくたら、どのような世界になるのかをぼんやり考える良い機会になりました。この世界に政府関連機関や大学を含め最先端で関わっている方々から情報を提供いただき、新たな世界を垣間見ました。モノやコトがデジタル化し、そのデータを自動的に処理しようとする万有引力には誰も逆らえないことが理解できました。

交渉学入門：より良いネゴシエーターとなるための理論とスキル

森下 哲朗

ビジネスや私生活で日常的に行っている「交渉」について、体系的に学ぶことができました。また良い交渉を行う上での視点と陥りやすいポイントを学ぶことで、今後の人生に活かせる学びを得ることができました。他社の方々との交流は刺激的で、自身を見つめ直すとともに多様性の重要性を確認する貴重な機会となりました。

質問力を磨く【入門編】～説・思考停止～

松本 美奈

実践的なワークショップを通じてのアウトプット重視であり、受け身ではなく、受講者側で考え、チームワークで成果物を出していくプロセスが非常によかったです。授業の中では日常の思考パターンへの気づきや、講師・受講者とのコミュニケーションも含め価値ある時間を過ごすことができました。他の方にも勧めたい講座です。

イノベーションを推進するソシオ・エコシステム

矢野 誠

講師や他の受講生とディスカッションを行う時間を多くとっていただき、大変刺激になりました。アウトプットの機会をいただき、業務から離れた広い視点で考える時間を持てたことは大変有意義でした。

変動する地球環境の中で生き残りをかけて：

食料と環境の科学概論

神澤 信行・藤原 誠

文系出身かつ通常業務の中では触れることがない、生物学の専門的な内容や防災・減災も絡めた水環境について貴重な話し・知識を得ることが大変参考になりました。一緒に受講した他企業の方々もTNFD開示で悩んでいる等、同じような課題・問題を扱っており大いに共感できました。

グローバルコミュニケーション・リテラシー

～グローバルメディアの変容と相互理解／音 好宏

広範囲な知識に裏付けされたわかりやすい説明で、グローバル視点でのメディア考察を興味深く学びました。質問に対しても、趣旨をくみ取って回答いただき、オンラインででしたが臨場感を感じながら受講できました。理解を深めるため、紹介された本にも積極的に触れていこうと思います。

ロールプレイで学ぶグローバル交渉力

森下 哲朗・島田 久仁彦

学び・気づきがとても多く、非常に新鮮な経験となりまして、改めて、貴重な機会をいただきましたことを感謝いたします。学んだことを実際にアウトプットする場が多く、自分の現在の交渉力を把握できたこと、どこを改善するかが格段にクリアでした。一方で相手プレイヤーの前提をロールプレイ後に聞いて、「えっそだったの。」と感じる場面も多く、自身のバイアスに注意しないと感も感じました。



交渉力を磨く～人を動かす交渉・コミュニケーション術：“納得”の導き方～／森下 哲朗・島田 久仁彦
 事例を交えて体系的に説明いただいたことで理解しやすく、興味深く、あっという間に時間が過ぎました。1日目の最後、2日目の模擬交渉は、参加者間で情報を整理し、戦略を立て、交渉を通じて修正し、また交渉を行うといった一連の体験ができ、非常に有意義でした。

傾聴力を磨く～部下のため、部署のため、そして会社全体のために～／久田 満
 大学教授から教わるロールプレイ対話による傾聴力の授業は、目からうろこの内容でした。少人数での講義であるため、他の受講生の実技を間近で拝見し、受講生同士で対話し、良い刺激を受け、自己研鑽できる貴重な機会でした。

人工知能：基礎と応用～人間と人工知能の相乗効果を引き出すために～／深澤 佑介
 実際のビジネスの現場でAIがどのように使われているのか、ビジネス現場の目線と言語で講義をしていただき、とにかく面白かったです。活用例となぜそれがビジネスになったのかという経緯、データサイエンティストとしての目線、ビジネスマネジメントとしての目線もとても勉強になりました。

国際会計～IFRSの会計情報とグローバル企業の財務分析～／西澤 茂
 会計に関する知識が乏しい中でも非常に有意義なもので、これまで受けた中でも最高の講義でした。会計に関する現状や今後の方向性を正しく認識するためにこれまでの世界や日本の歴史からひも解いていただき、大きな時代の流れを知ることができたことは、今後の会計に関する向き合い方や自身のモチベーションにとっても大きな影響を与えていただいたと感じています。本講義で学んだことは、確実に私の人生の財産になりました。

コロナ以降の環境をめぐる企業のパラダイムシフト：コロナ以降SDGs達成に向け世界はどのように変化し、企業は変革に向けてどのように対応していけばいいのか／織 朱實
 SDGsに向けて、リアルな現場実態として起こっている事例や日本・世界・個人・企業が何に取り組んでいて、何が阻害要因となっているかを多面的に知ることができ、SDGsの必要性をより深く実感し、かつ多くの知識を得ることも出来、非常に有用な講座でした。適宜質問も行いやすい雰囲気であったことも講座受講の満足度に繋がっており、これから受講する方には勧めたいと思います。

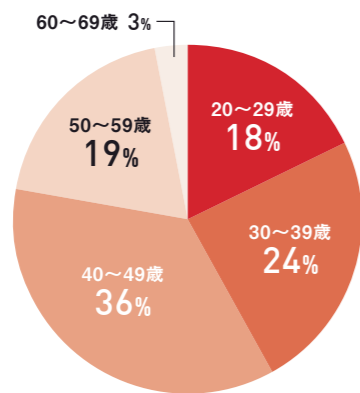
データサイエンスの実践—資産化するデータと技術—／百瀬 公朗
 生成AIの進歩が早い中、書籍では得ることができない最先端の話題、考え方について学ぶことができ、日ごろの視野の狭さを痛感しました。今回受けた刺激、学びを業務へ生かせるように、また世の中の動向にアンテナを張って感度よく吸収していきたいと思います。

質問力を磨く【実践編】～脱・思考停止～／松本 美奈
 問うことは対話の入り口、考え続ければ瞬時に考えられる、問うことができる、というのを体感できるグループワークでした。座学より満足度がありました。

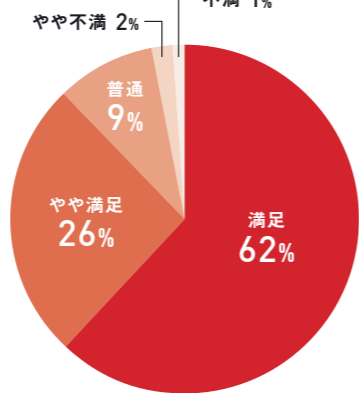
世界最小国バチカンから世界最大級の影響力を読み解く～教皇庁の歴史と外交から～／川村 信三
 こんなに充実した期間はなかったと思います。メディアなどの情報からでは決して学べない内容でリスキングがいかに大切かを再認識いたしました。バチカンやキリスト教が1000年以上も世界で影響を及ぼしている理由、米国の大統領選挙の投票行動、政治家と宗教の結びつきなど目からうろこでした。

中東問題の理解—マイノリティー集団から考える共存、多様性と排除、分裂／私市 正年
 普段、ニュースや新聞で見聞きしていた中東問題について講座を通して学んだことで、いままで自分自身が理解していた事は問題の本質からは少しズレていたことが分かりました。中東問題は往々にして宗教間の問題にさがちではあるが、実際はそうではない事の方が多いことを学びました。貴重な講義を受けて幸いです。

受講者内訳



受講者満足度



合計608名
 ※うち個人受講者は22名

※集計は2025年2月5日時点のもの

2025年度開講スケジュール

全ての講義をオンラインで実施します
 ★春/秋 同内容開講

プロフェッショナル・スタディーズ Webサイト
<https://www.sophia-professionalstudies.jp>



■ 教養講座 全6コマ(平日) 朝 8:30-10:00 夜 18:30-20:00

講座番号	コーディネーター	講座名	開講期	曜日	時間帯	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回
1112	大橋 容一郎	SDGsを哲学する—平和・平等・正義・幸福・公共・ケアを考える	春	木	夜	4/17	4/24	5/1	5/8	5/15	5/22
1113	寺田 俊郎	哲学の古典と対話で考える人間と世界—深く豊かな思考のために		水	夜	5/21	5/28	6/4	6/11	6/18	6/25
1121	長尾 直茂	日本文化と武士道		月	夜	4/21	4/28	5/12	5/19	6/2	6/9
1131	私市 正年	イスラーム諸国の宗教と政治—建国のリーダーの理念と現実		木	夜	5/29	6/5	6/12	6/19	6/26	7/3
1132	国枝 智樹	グローバルリスクと戦略的コミュニケーション★		月	夜	5/12	5/19	5/26	6/2	6/9	6/16
1142	横山 恭子	がんサバイバーと共に生きる社会を目指して		水	夜	4/16	4/30	5/14	5/28	6/11	6/25
1151	大槻 東巳	先進技術と基礎科学～意思決定の依拠を考察する～		金	夜	4/18	5/2	5/16	5/30	6/13	6/27
1154	深澤 佑介	実世界データサイエンス入門～データからインサイトを引き出す力～		木	夜	4/17	4/24	5/8	5/15	6/5	6/12
1162	音 好宏	グローバルコミュニケーション・リテラシー～グローバルメディアの変容と相互理解		水	朝	5/14	5/21	5/28	6/4	6/11	6/18
1211	吉川 まみ	人・自然・社会の持続可能性とライフスタイルの転換		月	夜	10/6	10/20	11/10	11/24	12/1	12/15
1213	寺田 俊郎	仕事に生かす哲学的対話—深く豊かな思考のために	秋	水	夜	10/22	10/29	11/5	11/12	11/19	11/26
1233	国枝 智樹	グローバルリスクと戦略的コミュニケーション★		火	夜	10/21	10/28	11/11	11/18	11/25	12/2
1234	小島 真智子	変わる世界秩序と安全保障—今日の情勢を共に考える—		木	夜	11/13	11/20	11/27	12/4	12/11	12/18
1241	石井 由香理	ジェンダー、LGBTQと多様性—信頼できる知を求めて		火	夜	11/11	11/18	11/25	12/2	12/9	12/16
1242	久田 満	障害者の心理学～差別や偏見のない共生社会の実現に向けて～		月	夜	10/6	10/20	11/10	11/24	12/8	12/22
1243	北村 喜宣	サステナビリティ社会における企業の環境戦略～法、政策、最前線の現場から		月	夜	10/27	11/10	12/1	12/15	1/5	1/19
1246	西口 尚宏	SDGs達成のための最新の国際規格を学ぶ		水	夜	10/8	10/22	11/5	11/12	12/10	12/17
1247	樋口 匡貴	社会の中の個人・個人の中の社会：社会と集団の心理学		木	夜	10/2	10/9	10/16	10/23	10/30	11/6
1252	矢入 郁子	デジタル駆動社会とBeyond 6G (3)		月	夜	11/17	11/24	12/1	12/8	12/15	12/22
1253	神澤 信行	変動する地球環境の中で生き残りをかけて：食料と環境の科学概論		金	夜	10/10	10/24	11/7	11/21	12/5	12/19
1255	青藤 玉緒	現在・過去・未来をつなぐ生命科学概論		金	夜	10/3	10/17	10/31	11/14	11/28	12/12

■ 教養講座 全6コマ(土曜)(1日2・3コマ) A ⑩10:00-11:30 ⑪12:30-14:00 ⑬14:15-15:45 B ⑫12:30-14:00 ⑭14:15-15:45 C ⑩12:30-14:00 ⑬14:15-15:45 ⑮16:00-17:30

講座番号	コーディネーター	講座名	開講期	曜日	時間帯	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回
1133	ユ一・アンジェラ	International Liberal Arts: Great Contemporary Thinkers and Our Daily Life	春	土	B	4/26①	4/26②	5/10①	5/10②	5/24①	5/24②
1161	森下 哲朗	交渉学入門：より良いネゴシエーターとなるための理論とスキル		土	A	4/12①	4/12②	4/12③	4/19①	4/19②	4/19③
1163	松本 美奈	質問力を磨く【入門編】～脱・思考停止～★		土	A	5/31①	5/31②	5/31③	6/14①	6/14②	6/14③
1212	鈴木 守	身体の観智に学ぶ—ソマティックワークが変える世界—		土	A	11/8①	11/8②	11/8③	11/15①	11/15②	11/15③
1222	山岡 三治	グローバル組織が直面する文化摩擦と克服 ～ローマ・カトリック教会の試行錯誤に学ぶ～		土	A	10/4①	10/4②	10/4③	10/11①	10/11②	10/11③
1223	寺田 勇文	アジア・太平洋戦争(1941-45年)をふりかえる	秋	土	A	10/4①	10/4②	10/4③	10/11①	10/11②	10/11③
1235	ユ一・アンジェラ	Understanding the World in the Language of International Liberal Arts		土	B	10/11①	10/11②	10/25①	10/25②	11/8①	11/8②
1244	出口 真紀子	マジョリティ側からダイバーシティを考える：特権と立場の心理学		土	A	11/8①	11/8②	11/8③	11/22①	11/22②	11/22③
1245	増山 美佳	人的資本経営と企業価値向上について～人材の価値を最大限に引き出す～		土	C	12/6①	12/6②	12/6③	12/13①	12/13②	12/13③
1261	松本 美奈	質問力を磨く【入門編】～脱・思考停止～★		土	A	10/4①	10/4②	10/4③	10/18①	10/18②	10/18③
1262	森下 哲朗／島田 久仁彦	ロールプレイで学ぶグローバル交渉力		土	A	12/13①	12/13②	12/13③	12/20①	12/20②	12/20③

■ スペシャリスト養成講座 全8コマ(平日)夜 18:30-20:00(土曜)A ⑩10:00-11:30 ⑪12:30-14:00 ⑬14:15-15:45 D ⑩10:00-11:30 ⑪11:45-13:15 ⑬14:15-15:45 ⑮16:00-17:30 E ⑨9:00-10:30 ⑩10:45-12:15 ⑪13:00-14:30

講座番号	コーディネーター	講座名	開講期	曜日	時間帯	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回
2101	森下 哲朗／島田 久仁彦	交渉力を磨く～人を動かす交渉・コミュニケーション術：“納得”の導き方～	春	土	A	5/31①	5/31②	5/31③	6/7①	6/7②	6/7③	6/14①	6/14②
2102	久田 満	傾聴力を磨く～部下のため、部署のため、そして会社全体のために～		金	夜	5/9	5/16	5/23	5/30	6/6	6/13	6/20	6/27
2103	西口 尚宏	イノベーション経営のプロフェッショナルになる		水	夜	4/16	4/23	4/30	5/14	5/21	5/28	6/4	6/11
2104	西澤 茂	国際会計～IFRSの会計情報とグローバル企業の財務分析～		木	夜	4/17	4/24	5/1	5/8	5/15	5/22	5/29	6/5
2202	織 朱實	企業のパラダイムシフト：変化する世界情勢、拡大する環境問題の中、持続可能な社会に向けて企業に求められる変革	秋	土	E	10/4①	10/4②	10/4③	10/18①	10/18②	10/18③	10/25①	10/25②
2203	百瀬 公朗	AI・データサイエンスの実践—生成AI時代のデータサイエンス—		水	夜	10/1	10/15	10/29	11/12	11/26	12/10	12/17	1/7
2204	私市 正年	中東問題の理解—マイノリティー集団から考える共存、多様性と排除、分裂		水	夜	10/8	10/15	10/22	10/29	11/5	11/12	11/19	11/26
2205	松本 美奈	質問力を磨く【実践編】～脱・思考停止～		土	D	1/24①	1/24②	1/24③	1/24④	1/31①	1/31②	1/31③	1/31④
2206	川村 信三	ローマ教皇と教皇庁から探る、深層のヨーロッパ政治・宗教・文化		金	夜	10/3	10/17	10/31	11/14	11/28	12/12	1/9	1/23
2207	深澤 佑介	人工知能：基礎と応用～人間と人工知能の相乗効果を引き出すために～	木	夜	10/9	10/16	10/23	10/30	11/6	11/13	11/20	11/27	

■ 特別講座 実施回数が1回～2回のショート講座になります。

講座番号	コーディネーター	講座名	開講期	曜日	時間帯	第1回	第2回
5101	山本 誠一郎	ビジネススキルを磨くアート思考	春	水/土	水/18:30-20:00 土/14:15-15:45	5/21	6/7
5102	飯島 真里子	コナコーヒーのグローバル・ヒストリー：人、モノ、ブランドの重層的移動史		土	12:30-14:00	4/12	4/26
5103	久田 満	傾聴力を磨く～部下のため、部署のため、そして会社全体のために～【上級編】※	秋	土	13:30-18:30	7/19	—
5201	織 朱實	多様性の時代の企業のパラダイムシフト：変化する世界情勢、深刻化する環境問題の中、持続可能な社会に向けて女性経営者の視点からヒントを考える		土	15:00-17:00	9/27	—

※第1回・第2回は同内容
 ※過去に「傾聴力を磨く」を受講された方限定

※2025年2月時点での開講スケジュールとなります。今後、やむをえず変更になる場合があります。